



朝早く目が覚めた。  
カーテンを開け初秋の色を感じる。  
思わず窓を開け風を入れる。夏の暑さがなつかしい。  
早朝の香りがすがすがしい、何か良い日になりそうだ。  
今日は町内の例大祭。  
数百年昔の民も同じ朝を迎えたのだろうか。  
神社の森、朝八時、鳥の声、鳥居の上高く幟（のぼり）がなびく。

きらびやかな神輿（みこし）、囃子（はやし）の音色に心が躍る。  
神輿を担ぐねじり鉢巻の半被姿。今か今かと静かに待つ。  
かわいい金棒引きの少女達。元気な掛け声で町内巡行のはじまり。

巡行の途中より小雨。止んでくれ！ でも無情の雨。  
夕暮れ近い頃、神輿を担ぐ半被が雨滴で光る。  
神輿が上下に揺れる境内。一際大きな掛け声の渦。  
老若男女樽酒の回し飲み。感動！ 祭のクライマックス！  
夜の舞殿、演芸会がスタート。祭の酒は美味しい。  
雨はますます激しくなる。ああ雨よ！  
物まねスター後川きよしの雨の詩。



「頬にこぼれる なみだの雨に 命も恋も 捨てたのに こころ こころ乱れて  
飲んで 飲んで酔いしれる酒に恨みはないものをああ長崎  
は 今日も雨だった」 ♪♫♪♫♫  
演芸終わり三々五々、祭のあとの静けさよ・・・。  
後片づけが終わる頃、降るのが止んだ。ああ雨よ！  
あと数時間前にこの優しさが欲しかった。  
雨上がりの夜がふける。すばらしい朝が来るにちがいない。  
See You Morning!  
早朝からの後片づけ。再び激しい無情雨。  
片づけが終わる頃、いつしか雨が消えていた。  
濡れた境内にひびく笑い声。人生いろいろ、お祭いろいろ、  
天気は人に合わせてくれない。



これからもめげずに元気よくやるしかない・・・。

新聞で「国際人とはどんな人なの」という高校生の投稿を読み、「国際人」という言葉に久しぶりに会ったような気がした。昔現役の頃、「国際化」「国際人」「グローバル企業」「国際人のエチケット」などが良く言われていたことを懐かしく思い出した。

その高校生は、新聞の読者投稿欄で「小学校の英語必修は不可欠」と言う記事を読み、自分は英語教師に憧れているが、英語が話せるからといって本当の意味での国際人になれるとは思わない、どのような英語教育をすれば国際人になれるのかを知りたい・・・と書いていた。

急に興味が沸いて来て、高校生が読んだという約一ヶ月前の「・・・必修は不可欠」の記事を読みたくなり探し出した、概要は次のようなものであった。

- ・文化相が小学校の英語必修化に関し、否定的なコメントをしたと知り愕然とした。
- ・日本の国際化が唱えられて久しいが、本当の意味での国際人が今の日本に何人いるだろうか。
- ・財界、政界で国際会議に通訳を連れ歩くのは先進国では日本だけだ。これは全て日本の英語教育レベルの低さに起因する。
- ・小学校からの英語教育の必要性、特にヒアリングと会話力は急務である。

仕事を離れ既に大分経つが、久しぶりに昔のことを思い出しながら考えてみた。人が仕事を推進するためには信頼関係が必要である。打ち合わせしたり、現場で汗を流したり、一緒に食事をしたりしている内に、お互いに相手の人格を認め合えるようになることだと思う。

技術が分かる、ビジネスが分かる、仕事が出来れば信頼関係ができ、全てうまくいくとは限らない、なぜなら仕事は人と人とが心を合わせて推進するものだからだ。これは国内でも海外でも全く同じであると私は何度も体験している。つまり国内外を問わず人間は基本的に同じなんだと思う。

それには先ず責任ある仕事が出来るとは勿論であるが、相手の立場、自分と相手の違い（多様性）を理解し、物事を考えることが出来る柔軟な心があるかどうかであり、このような心で人と交際することの出来る人が「国際人」になれる人だと思う。

さらに、このような人格の上に立って相手とコミュニケーション出来ることが重要であり、これが無いと相互理解も信頼関係も難しい、つまり語学は国際人の重要な資格の一つといえる。

レベルはその仕事によりいろいろでしょう、各人がその必要性に迫られてレベルアップを図るしかない。

中学、高校、大学と長時間の学習チャンスがある。もちろん実社会に出てからもチャンスはある。逆に小学校まで時間を広げても問題が解決するとは思えない。

むしろ、実際に英語を使いコミュニケーションできる感動を体験できる環境作りが効果的ではないだろうか。この感動を味わうと欲が出て来て、もっと話したくなり単語の量が増え、言い回し方が増え、中学卒業時、高校卒業時には日常会話が出来るようになるかもしれない。昔、マレーシアで体験したことであるが、この国で商売をやるにはマレー語、英語、中国語を使えないとやっていけないのが現実らしい。

現地会社の若い技術者が全員三つの言葉を使い分けているのを見て、英語以外にも苦労していた私は実に不思議に思えた。

「どうしてニヶ国語も話せるの、どのようにして勉強したの・・・」という私の質問に彼らは困った顔をして、「特別勉強した覚えは無いね、子供の頃から自然に身に付いたようだ、とにかく生活したり仕事をするために必要だからね」であった。しかし彼等もマレー語だけは話せても読み書きは難しそうであり、正確な読み書きは秘書に頼めばよい、しかし言葉が出来ないとどうにもならないとの事であった。なるほど先ずは言葉かと思ったことを覚えている。外国語を勉強しても、実際に使ったことがない、使う環境もない、その結果どのように使うのかわからない、また使ってコミュニケーションできた時の喜びを知らないまま、時間だけが過ぎてしまう。

このような事にならないような英語教育が必要ではないだろうか。外国語の先生を志す人、ビジネス、政界で活躍したい人は、その後の大学や実社会で自ら環境づくりをし必死に練達すればよいのだ。

語学留学しても余りしゃべれないまま帰国する人、流暢に話すようになる人、様々あると聞いたことがある。要は本人しだいであり小学校まで必修とする時間の問題ではないような気がする。

#### 48・「いい夫婦の日」(2006.12)

五年ほど前、海外ロングステイのセミナーを受けた時にロングステイに対する意識調査の説明があった。貴方は一体誰と一緒に行きたいのですか？の調査結果に少し戸惑いを感じたことを覚えている。夫婦だよ！と答えた人は男性が七十五パーセントに対し女性が四十二パーセント。一人または友人がいいなくは男性十六パーセント、女性四十五パーセント。つまり一言で言うと女性は夫と旅するよりは一人旅か友人と同伴する方がハッピーのようである。過日十一月二十二日は「いい夫婦の日」と制定されていることを新聞で知った。世の中にバレンタインデー、母の日、父の日などがあるが、少子高齢化の中にあって夫婦の日があっても良いのではないか、またいい夫婦関係は明るい社会を作る礎であるとのことだが、納得した。

さて五年前の調査がその後どうなっているか気になっていたが、つい先日の紙

上で「定年後増える夫婦の時間」についての調査結果が出ていた。定年後夫婦の時間が増えることに「うれしい」と答えた人は、夫四十八パーセント、妻二十七パーセント。相手に先立たれた時、人生の楽しみを見つけられるかに対し「見付けられる」は、夫四十五パーセント、妻六十五パーセント、来世も今の相手とは夫四十一パーセントに対し妻二十六パーセント。これ等を見るとどうやら世の中は以前と余り変わっていないようである、いろいろある海外の国々では一体どのような結果が出るのだろうか。

これは心の豊かさ、人生の本当の豊かさの一つのバロメータになるのではないだろうか、なぜなら夫婦は社会の最小単位の絆だから・・・この夫婦間の約二十ポイントの意識ギャップはどうしたら埋められるのだろうかと思ふとき、川柳コンテストの作品の中にならずける一つを見つけた。それは「定年は主婦にもあると妻が言い」・・・。さて我が家は・・・と少し反省してしまふ。

#### 49・農道で遇ったスイス人 (2006.12)

今年も師走か！ とついこの間思ったのに今日は早くも冬至の二十二日だ。毎年この時期になると「暦はもう少して今年も終わりですね・・・」の唄の歌詞が自然に出てくる。

ついでに雪国育ちの私は雪景色がどうしても目に浮かんでしまう年の暮れである。年末にあたり一年を振り返り、今年一番良く実行したこと、継続したことは何かというと、迷わず我が家に十三年間在宅勤無している犬との散歩である。散歩時間になると犬がガラス窓をノックするので無視するわけにもいかずやむを得ないと言うこともある・・・年間を通じ散歩しない日を数えることが出来るほど、ほぼ日課になっている。

先日いつもの野菜農道を散歩していると、珍しく若い外国人の青年が一人自転車を停めて真つ赤な夕焼け空、その中にくっきりと見える富士山に向かって立っていた。この季節の晴れた夕暮れ空は格別に綺麗だ。

彼は全然動こうとしないが多分感動のあまり立ち尽くしているのだろう。だんだんと近づいて私については彼と1メートルの距離になり、黙ってすれ違うのも不自然と思ひ何年も使っていない英語で声を掛けた。「ハロー、空が綺麗ですね、どこの国から来たのですか」すると英語で「スイスです」と返してきた。

スイス旅行したこともあったので急に親近感が湧いてきて「日本では勉強ですか仕事ですか、もう長く滞在しているのですか？」

と続けた・・・ここまでは良かった。何とその後の返事は流暢な日本語で返ってきたのである。

勿論完璧な日本語ではないが会話するには十分である。彼はしきりに「日本は美しい！と、という、

不法投棄物が多く散歩しながらいつも頭に來ている私としては「スイスのほうがもっと美しい」と言い返した。

スイスを二週間歩き回ったが、不法投棄ゴミを見たことが無かったからである。彼が私と一緒に毎日散歩したら、きつと「日本はよく見ると汚いのですね」と言うに違いない。それにしても、日本人なのに何で外人を見るところまくも無い英語でついハローと言ってしまうのか・なぜ「今日は！」と言わなかったのかと少し赤面してしまう。彼はスイス人だから多分ドイツ語かフランス語、あるいはイタリア語を日常使っているに違いないが、日本に来るために日本語に敬意をもって会話できるように努力したに違いない。

昔、海外出張でマレー語、アラブ語、中国語、タイ語の世界に長期滞在したが、英語で何とか用が足りると言うことから、その国の言葉を覚える努力を余りしなかったことを反省するが、それに比べるとスイス人の彼は立派である。

訪れる国の言葉で会話をするという気持ちを持つことの大切さを思った。